

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成24年10月11日
【四半期会計期間】	第59期第3四半期（自平成24年6月1日至平成24年8月31日）
【会社名】	アスカ株式会社
【英訳名】	ASKA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 杉本 篤哉
【本店の所在の場所】	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地
【電話番号】	0566(36)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 総務・経理・経営管理担当 竹之内 敏昭
【最寄りの連絡場所】	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地
【電話番号】	0566(36)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 総務・経理・経営管理担当 竹之内 敏昭
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期連結 累計期間	第59期 第3四半期連結 累計期間	第58期
会計期間	自平成22年12月1日 至平成23年8月31日	自平成23年12月1日 至平成24年8月31日	自平成22年12月1日 至平成23年11月30日
売上高(千円)	11,645,327	15,086,290	16,228,922
経常利益(千円)	105,751	466,402	187,097
四半期(当期)純利益(千円)	28,950	230,188	73,876
四半期包括利益又は包括利益(千円)	7,865	318,203	17,070
純資産額(千円)	4,253,364	4,563,644	4,262,569
総資産額(千円)	15,979,086	17,346,613	15,850,199
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	5.07	40.32	12.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	26.6	26.3	26.9

回次	第58期 第3四半期連結 会計期間	第59期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年6月1日 至平成23年8月31日	自平成24年6月1日 至平成24年8月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	7.54	24.53

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第58期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、株式会社岡山国際サーキットを連結子会社化しました。また、平成24年7月にインドネシアに子会社PT. AUTO ASKA INDONESIAを設立しました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

<自動車部品事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<配電盤事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<ロボットシステム事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<その他>

株式会社岡山国際サーキットの連結子会社化に伴い、新たにモータースポーツ事業に進出しました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等が行われておりません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞から緩やかに持ち直しているものの、欧州の債務危機を背景に中国経済が減速感を強めたことに加え、長期化する円高や原油価格が上昇するなど、企業を取り巻く環境は、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは提案型の営業を積極的に展開するとともに、より効率的な製造体制を目指して、技術開発及び合理化活動を強力に推進しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高150億8,629万円（前年同四半期比29.5%増）、営業利益は3億9,482万円（前年同四半期比801.1%増）、経常利益は4億6,640万円（前年同四半期比341.0%増）、四半期純利益は2億3,018万円（前年同四半期比695.1%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

〔自動車部品事業〕

震災等の影響により一時的に減少した生産量が回復基調へ転じた結果、当事業の売上高は106億8,559万円（前年同四半期比29.0%増）となりました。

〔配電盤事業〕

新規得意先への受注拡大を積極的に展開した結果、当事業の売上高は19億5,701万円（前年同四半期比62.7%増）となりました。

〔ロボットシステム事業〕

自動車部品メーカーの海外工場向けの自動化システムが好調に推移した結果、当事業の売上高は20億3,438万円（前年同四半期比8.2%増）となりました。

〔その他〕

株式会社岡山国際サーキットの連結子会社化に伴い、新たにモータースポーツ事業に進出しました。当事業の売上高は4億928万円（前年同四半期比46.6%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は4,202万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年10月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,715,420	5,715,420	名古屋証券取引所(市場 第二部)	単元株式数100株
計	5,715,420	5,715,420	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年6月1日～ 平成24年8月31日	-	5,715,420	-	903,842	-	901,555

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 5,700	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,709,000	57,040	-
単元未満株式	普通株式 720	-	-
発行済株式総数	5,715,420	-	-
総株主の議決権	-	57,040	-

（注）証券保管振替機構名義の株式5,000株は、完全議決権株式（その他）欄の株式数に含まれておりますが、同機構名義に係る議決権50個は、同欄の議決権の数には含まれておりません。

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
アスカ株式会社	愛知県刈谷市一里山町東吹戸11番地	5,700	-	5,700	0.10
計	-	5,700	-	5,700	0.10

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役自動車部品事業部営業部長	取締役自動車部品事業部幸田工場長	奥山 和久	平成24年3月1日
取締役自動車部品事業部幸田工場長	取締役自動車部品事業部営業部長	片山 義浩	平成24年3月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年12月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	363,323	591,613
受取手形及び売掛金	2,970,029	2,998,997
商品及び製品	96,250	121,599
仕掛品	1,077,796	875,389
原材料及び貯蔵品	299,139	291,507
その他	655,155	737,699
貸倒引当金	-	470
流動資産合計	5,461,695	5,616,337
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,591,942	3,042,603
機械装置及び運搬具(純額)	1,550,646	1,619,943
土地	3,689,395	3,901,631
その他(純額)	535,087	624,388
有形固定資産合計	8,367,070	9,188,567
無形固定資産	19,778	20,213
投資その他の資産		
投資有価証券	1,050,022	1,709,024
その他	951,632	812,471
投資その他の資産合計	2,001,654	2,521,496
固定資産合計	10,388,504	11,730,276
資産合計	15,850,199	17,346,613
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,153,725	1,997,431
短期借入金	1,200,000	1,750,000
1年内返済予定の長期借入金	1,768,813	1,866,088
未払金	1,369,714	1,466,998
未払法人税等	10,518	30,955
賞与引当金	12,065	137,000
その他	742,154	652,942
流動負債合計	7,256,991	7,901,416
固定負債		
長期借入金	3,594,714	4,022,632
退職給付引当金	510,633	500,702
役員退職慰労引当金	225,290	240,665
その他	-	117,552
固定負債合計	4,330,638	4,881,552
負債合計	11,587,629	12,782,969

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	903,842	903,842
資本剰余金	901,555	901,555
利益剰余金	2,476,138	2,689,197
自己株式	3,505	3,505
株主資本合計	4,278,030	4,491,089
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,460	72,554
その他の包括利益累計額合計	15,460	72,554
純資産合計	4,262,569	4,563,644
負債純資産合計	15,850,199	17,346,613

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
売上高	11,645,327	15,086,290
売上原価	10,830,473	13,724,561
売上総利益	814,853	1,361,729
販売費及び一般管理費	771,036	966,901
営業利益	43,817	394,827
営業外収益		
受取利息	707	729
受取配当金	19,833	17,698
助成金収入	87,376	33,373
受取地代家賃	13,131	47,923
その他	9,514	17,478
営業外収益合計	130,565	117,202
営業外費用		
支払利息	44,379	38,727
その他	24,251	6,900
営業外費用合計	68,631	45,628
経常利益	105,751	466,402
特別利益		
貸倒引当金戻入額	258	-
投資有価証券売却益	12,009	-
特別利益合計	12,268	-
特別損失		
前期損益修正損	23,719	-
固定資産売却損	2	-
固定資産除却損	31,646	-
投資有価証券売却損	-	4,906
投資有価証券評価損	-	28,298
その他	4,120	-
特別損失合計	59,488	33,204
税金等調整前四半期純利益	58,531	433,198
法人税、住民税及び事業税	10,121	28,968
法人税等調整額	19,459	174,041
法人税等合計	29,580	203,010
少数株主損益調整前四半期純利益	28,950	230,188
四半期純利益	28,950	230,188

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	28,950	230,188
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	21,084	88,015
その他の包括利益合計	21,084	88,015
四半期包括利益	7,865	318,203
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,865	318,203

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
連結の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、株式会社岡山国際サーキットの株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
減価償却費 649,220千円	減価償却費 586,150千円 のれんの償却額 74,665千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年12月1日至平成23年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年2月22日 定時株主総会	普通株式	45,677	8	平成22年11月30日	平成23年2月23日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年2月21日 定時株主総会	普通株式	17,129	3	平成23年11月30日	平成24年2月22日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年12月1日至平成23年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	自動車部品 事業	配電盤事業	ロボットシ ステム事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,282,162	1,203,060	1,880,847	11,366,070	279,256	11,645,327	-	11,645,327
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,553	130,230	74,931	208,715	2,615	211,331	211,331	-
計	8,285,716	1,333,290	1,955,778	11,574,785	281,872	11,856,658	211,331	11,645,327
セグメント利益 又は損失()	88,654	34,347	124,884	1,883	38,828	40,712	3,105	43,817

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材教育及び研修事業であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額3,105千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	自動車部品 事業	配電盤事業	ロボットシ ステム事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,685,599	1,957,017	2,034,389	14,677,006	409,284	15,086,290	-	15,086,290
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,373	40,391	103,747	145,512	3,228	148,741	148,741	-
計	10,686,972	1,997,408	2,138,137	14,822,519	412,512	15,235,032	148,741	15,086,290
セグメント利益	51,022	120,237	177,787	349,046	42,676	391,722	3,105	394,827

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材教育及び研修事業並びにモータースポーツ事業であります。

2. セグメント利益の調整額3,105千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社岡山国際サーキットを新たに連結子会社としたことにより、「その他」においてのれんが74,665千円発生し、発生時に全額償却しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	5円7銭	40円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	28,950	230,188
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	28,950	230,188
普通株式の期中平均株式数(株)	5,709,684	5,709,684

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月10日

アスカ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 裕之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 隆行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアスカ株式会社の平成23年12月1日から平成24年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年6月1日から平成24年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年12月1日から平成24年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アスカ株式会社及び連結子会社の平成24年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。